

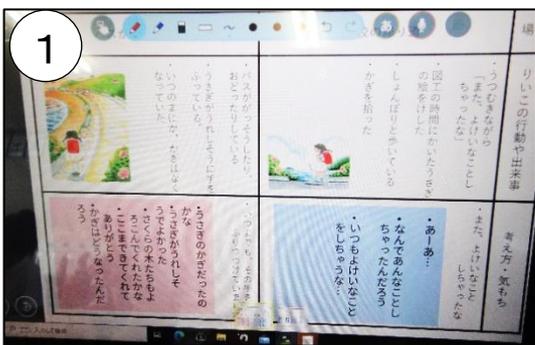


味坂小学校 公開授業 第3学年 指導者 久保田 直哉 先生 国語科 「まいごのかぎ」

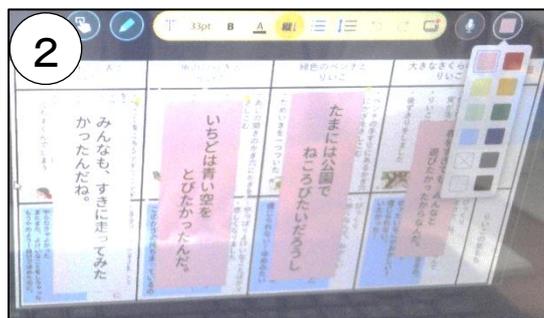
【主眼】 主人公の気持ちの変化の理由について、ICT機器を使って場面ごとの気持ちをまとめた表をもとにして書くことができる。

【タブレット端末の主な活用場面】

本時の授業では、主人公である「りいこ」が不思議な出来事を通して、周囲の出来事や自分自身を肯定的に捉えることができるようになる姿を描いた成長の様子について考えました。主人公「りいこ」の「不思議な出来事に対する考え方」と「気持ちの変化」を場面ごとに読み取り、様々な出来事によって変わっていく主人公の気持ちを読み取りながら授業は進められました。



① 「つかむ段階」では、主人公の最初と最後の気持ちを比べることができるようにロイロノートで表に整理したものをふり返らせることで、主人公の気持ちが変わっていることに目を向けさせ、課題意識を高めることができます。



② 「解決する段階」では、主人公の気持ちがマイナスの気持ちからプラスの気持ちに変わったことを視覚的に捉えさせ、考えを書く際の手掛かりにできるよう、叙述を基にまとめた出来事の表に短冊状のカードをタブレット上で並べ替えたり、カードの色を変えたりする作業を行いました。



③ タブレットで作成した自分の考えを持ち寄り、考えの交流をした様子です。視覚的な色の変化と友達の考えを基に自分の考えを再構築しています。

自分が書いた内容について『「はっと気付いたのです。」のところから、それまで余計なことをしていたと思い込んでいたことが、本当はそうではなかったということが分かり明るい気持ちになったと思うので、カードをピンクにしました。』など、理由とともに述べることができました。

助言の中でも、本時の授業だけではなく、日ごろからグループ協議の視点等を丁寧に指導されている成果であると評価していただきました。

参加者の感想

- タイピングやフリック機能を使わずに、低学年でも活用できるようなものを見せていただき、大変勉強になりました。簡単な操作（移動、カードの色を変える等）だけで、子どもたちの学びを手助けするツールになっているところがよかったです。
- （心情の変化を視覚的に表すための）短冊の並べ替えは、子どもが「活動したい」「考えたい」と思う活用だったと思います。個々の考えができたなら、それをよりよく共有したり発表したりする方法にステップアップできるので、ぜひ自校に持ち帰りたいです。
- 授業の中でICTをどのように活用していくのか、そのために 普段から使い慣れておくということも重要だと感じました。どの使い方がより効果的な学習になるのか考え、選択・活用していきたいと思いました。

＜福岡県教育センター 永田 浩之 指導主事 による指導助言（要旨）＞

- ・ まとめを書かせる際には、例えば書いたものを一度ロイロノートで提出させ、友達の考えを参考にできる状態にしてもう一度書かせることで、子どもたちが書いたまとめの質を上げることができる。
- ・ ICTの活用で、同じ機能や方法を使ったとしても、使うタイミングや教師の声かけ、切り返しのタイミング等で効果的なものにもなるし、そうならない場合もある。これまで目指していた授業像に加え、どのようにICTを活用することが効果的かを考えた授業づくりをしていただきたい。
- ・ 情報活用能力育成のために想定される学習内容は四つ（①基本的な操作等、②問題解決・探求における情報活用、③プログラミング、④情報モラル・情報セキュリティ）考えられるが、本日の国語の授業は、「りいこが思ったこと」という情報を集め、それらを「整理」し、なぜそのように「気持ちが変わっていくのか」という問題解決・探求における情報活用能力が育成される内容である。「情報活用能力」は特別な授業、特別な場面で育成されるものではなく、教師が意識することで日常の授業の中で本時のように育成されていくものである。

デジタル教科書、メクビットの活用について

○メクビット、デジタル教科書の活用の見通し

- ・ SSO（シングルサインオン）に向けたアカウントの紐付け作業中であり、7月上旬から各学校で活用可能の見込みです。
- ・ 夏季休業中の活用については、学習課題として活用させる等、各学校任意で計画してください。2学期からは、全校で授業等での計画的な活用をお願いします。

○活用に向けた説明の見通し

- ・ 7月の園長・校長連絡会で説明
- ・ ICT教育推進委員に対して説明（園長・校長連絡会後に設定。日程については後日お知らせします）

取り組みは「子どもに起こる現実・思い」から ～ 社会総がかりで「みんなを当事者」に ～

教育委員会では、PTAの方との協議会やBB保護者説明会などの機会に、「学校・家庭・行政・地域が一緒になって対話し、学び合う場」の必要性を話しています。実際に、親子で端末使用のルールづくりを一緒に行う取り組みを行っている学校もあります。学級懇談会等の場を活用し、保護者どうしの交流を通して、それぞれの家庭でのルールづくりの様子や課題等について、情報交換をすることが有効ではないかと思われ

ます。なお、学校において、人が傷つく端末上の書き込みを見たという場面設定で人権学習を行う際は、心情的な部分だけに偏り過ぎず、「具体的にどんな行動を行うことが大切か」という観点とのバランスを大切にすると良いのではないのでしょうか。自らの差別する心と向き合いながらも、どのように行動することが大切なのかを「自分事」として整理できる学びでありたいと思います。周りを巻き込みながら、「みんなを当事者に」という視点で進めていきましょう。

文責 久野

目的と状況に応じた効果的なICTの活用

6月議会では、「ICT活用によるペーパーレス化の状況」についての一般質問を受けました。このため、各学校の取組状況を集約させていただきましたが、次のような業務削減につながる取組が行われていることが分かりました。

- ・ 職員会議をペーパーレスで行っている。
- ・ 毎月の運営委員会のレジメをロイロノートに入れ、タブレット持参で実施。
- ・ 行事の反省（入学式、体カテスト、遠足など）は、ロイロノートに入力・集計。
- ・ ロイロノートを使ってPTA総会資料を事前にデータで送付した。
- ・ 保護者会の出欠確認をオンラインで行った。等

特に昨年度後半からこのような取組が進み出していることをお答え致しました。

一方、データ上のみではメモが取れない（取りにくい）、画面では多種類・他枚数の資料を俯瞰的に把握しづらいという課題もあります。このため、各学校では、目的に応じてICTと紙媒体を使い分けたり、組み合わせたりされているようです。

授業でも同様に「目的と状況」を踏まえることが大事です。味坂小国語の授業では、まだ3年生の6月というタイピングへの移行段階ですので、「書く」活動は鉛筆を使って行われました。同時に、前時までの学習の足跡はロイロノートに整理されて自由に閲覧できるよう整えられていたため、子ども達は、自在に前時までのノートを開いて物語文の叙述を確認したり、人物の心情について話し合った記録をたどったりしながら、学びを振り返っていました。発達段階という状況に応じ、主体的にタブレットを活用できるようにするための配慮がなされていると感じました。

秋永